

昨年度実施した第3回“かさまつ いいね”写真展には、一般の部に53点、児童・生徒の部に69点の応募がありました。どの応募写真からも、笠松の自然のすばらしさや人の温かさが伝わってきました。それらの応募作品の中から『いいね大賞』と『いいね賞』を、合わせて6点選びました。

一般の部

『いいね大賞』 「健やかな成長を願って!」 駒瀬 圭司 さん

『いいね賞』 「ラストスパート」 小栗 敬彦 さん

「おもてなし」 加藤 司郎 さん

児童・生徒の部

『いいね大賞』 「春祭り」 森 さくら さん

『いいね賞』 「神社のとりいから来る友達」 中野 綾真 さん

「木曽川のカモ」 堀場 郁衣 さん

また、5月16日から6月15日までは十六銀行笠松支店、6月27日から7月20日までは大垣共立銀行笠松支店で、入賞作品や主な応募作品を展示します。ぜひ、ご鑑賞ください。

第4回“かさまつ いいね”写真の募集は10月1日から実施します。多数の応募をお待ちしています。

優秀作品に入賞された方には、副賞として笠松の名産品を1品選んでいただき、贈呈します。

一般の部 いいね大賞



「健やかな成長を願って!」

児童・生徒の部 いいね大賞



「春祭り」

かさまつの民話「昔むかし」

どんぐりがゆ①

久平さは、降り続くつめ

たい雨にうたれながら気がぬけたように立っていた。

ひたいからしたたりおちる雨も、蓑のすきまからえり

につたわってくる露も氣にならなかった。八月も終り

だというのにまだ花をつけない稲。それなのに庄屋さ

まは命令なさったのだ。

「久平さや。この雨じゃ。

ことしで七年目の不作。そ

れなのにご陣屋さまから、四公でよいから米を出せと

の達しじや。」

庄屋さまは、目をとじ、

やたらと頭をかきむしりながら「この雨続きに四公

も。」とつぶやいた。

「久平さのところは、五俵の割りあてじや。つらか

ろうが十一月の米納めまで

になんとか出しておくれ。」

久平は、このことばを思い出しては、ため息をついた。五反百姓の久平にとつ

て、四分作もあぶないのに、五俵などおおよびもつかない

量だった。

久平は、道ばたに少しばかり生えているオオバコを

手あたりしだいにむしり取りふところへ押しこんだ。

「おたね。おたね。」

きよ年の十一月、はらがへつたと泣きながら、風邪が

もとで死んでいった娘の名を久平はよわわしく呼び続

けた。久平には、このオオバコさえ食べられないで、や

せおとろえ、道の草の根にかじりつきながら死んでいく

妻や子の姿がうかんだ。

(つづく)

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。